

## 令和3年度応急救護講習会

令和4年2月8日

新宿消防署 救急技術担当係長 上條 章

### 本日の講習内容

- ▶ 1、三角巾を用いた止血処置について
- ▶ 2、三角巾を用いた固定処置について

### 三角巾を用いた止血処置について

- ▶ 一般的に体内の血液の20%が急速に失われると出血性ショックという重篤な状態になり、**30%を失えば生命に危険**を及ぼすといわれています。
- ▶ 私たちの体には、体重の1/3分の1ないし1/4分の1の血液があるといわれています。体重が**60**の人で**約5L**の血液があると考えられます。
- ▶ 全血液量の**3分の1**（約**1.6L**）を失うと**生命が危険な状態**になるといわれています。

### 出血の種類

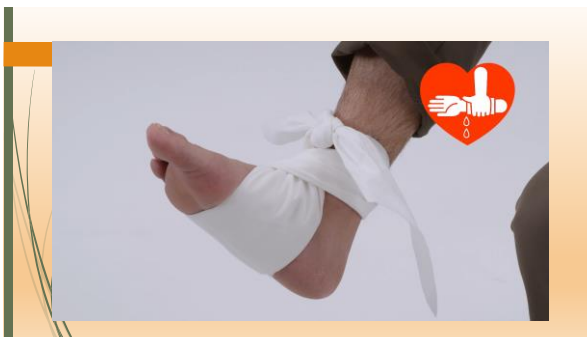
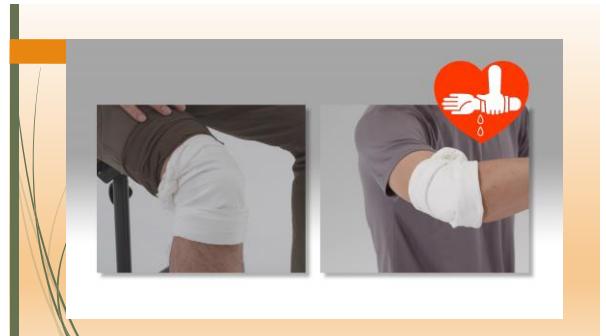
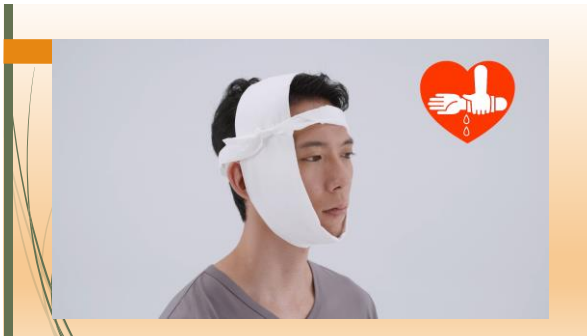
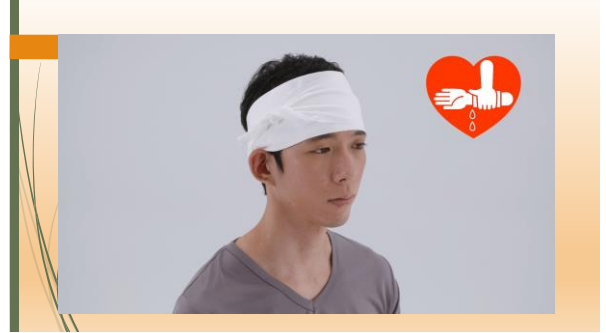
- ▶ **動脈性出血**→傷口から**噴き出す**ような出血を**動脈性出血**といい、血管が細くても**真っ赤な血**が脈打つように噴き出します。緊急に**応急手当を必要とするのは、この動脈性出血**です。
- ▶ **静脈性出血**→傷口から**湧き出る**ような出血を**静脈性出血**といい、赤黒い血が持続的に湧くように出血します。けが人を元気づけながら、傷口にしっかりとガーゼ等を当ててください。
- ▶ **毛細血管性出血**→傷口からにじみ出るような出血を**毛細血管性出血**といい、指先を切った時等に傷口から赤色の血がにじみ出ます。そのままにしておけば、自然に止まります。

### 止血のポイント

- ▶ 出血時の止血方法として、出血部位を直接圧迫する**直接圧迫止血法**が**基本**となります。

### 注意事項

- ▶ これから動画を流しますが三角巾については自身の体に巻いてください。



### 三角巾を用いた固定処置について

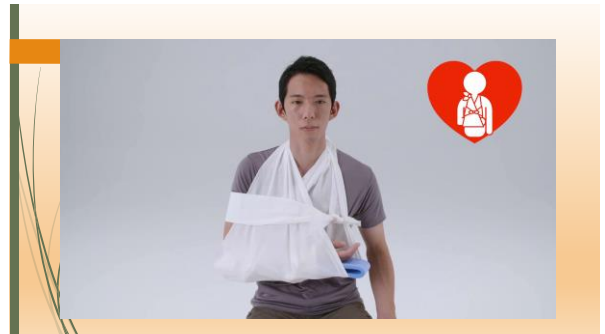
- ケガで手足が変形している場合や皮膚が不自然に隆起している場合は骨折を疑います。
- 傷口から骨が飛び出している場合や痛みが強く動かせない場合も骨折を疑います。
- 骨折した手足を固定することで、移動する時の痛みの軽減や損傷を防ぐことができます。

### 固定処置のポイント

- 変形している場合でも、元に戻す必要はありません。基本的にそのままの状態に固定します。
- 動かさざる得ない時は、愛護的に動かし痛みが強い時は救急隊の到着を待ちます。
- そえ木（副子）や新聞紙、段ボール等を当て、三角巾などで固定します。

### 固定処置のポイント

- そえ木（副子）は、骨折部を挟んだ上下の関節を固定できるものが良い。
- 骨折部上下の関節を含めて固定することで、骨折部がより確実に動かなくなります。



### 感染防止のポイント

- 止血のため傷病者の血液に直接触れても感染症にかかる危険は低いとされています。
- それでも、念のためビニール製やゴム製手袋を着用し、血液に直接触れないのがより安心です。（ビニール袋で覆うことで代用もできます。）
- 直接血液が付着したら、血液が見えなくなるまで流水で洗い流します。（消毒用アルコール等で清拭すればより良いです。）



ご清聴ありがとうございました。

※講習会で使用した動画資料については、**東京消防庁公式アプリ**をダウンロードすると視聴できます。

